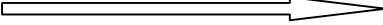
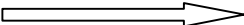
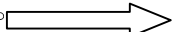
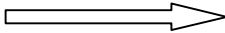
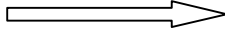


自閉症の障害特性（心理的な障害の特性と診断基準に見る行動の側面）

2004年7月16日

特 性	自閉症者の「証言」とそこから考えられる行動面での特徴	診断基準での分類
<p>中枢性統合の弱さ</p> <p>全体の状況理解ではなく、部分部分に対して反応しがちである。</p>	<p>『できごとや音、人、風景がなだれのように絡みあっている。そこには境界もなく、秩序がなく、意味は存在していない・・・』</p> <p>↓そのために、</p> <p>『恐怖が私の固執性を高め、私の生活は恐怖を抑えることではつばいだった』</p> <p>『自閉症症状の中で支配的であった感情は、恐怖であったという。テレーズはすべてを同じように保つことで、忌まわしい恐怖感をいくらか避けることができたと言っている』</p> <p>①行動の硬直性 </p> <p>②シンボル機能の使用の硬直性 </p>	<p>・興味の限定、こだわり ⇒「行動の異常」</p> <p>・ごっこ遊びの欠如、言語発達の遅れ ⇒「コミュニケーションの異常」</p>
<p>感覚の分離性</p>	<p>『自閉症者にとって、視覚と聴覚の二つをすばやく切り替える作業は難しい』</p> <p>『自分は単一感覚の生き物である。見ることと聴くことを同時にできない（ドナ）』</p> <p>③視覚と聴覚を切りかえるのに時間がかかる。 </p>	<p>・目を見て話す（見つめあう）ことの欠如</p> <p>・身振り、表情など視覚と聴覚を用いての社会的な対人的相互作用の困難</p> <p>⇒「社会性の異常」</p>

<p>「心の理論」 障害説</p> <p>他者の心の存在ならびにその状態について知ろうとせず、ことばどおりの理解を行なう。</p>	<p>『私は人間関係の中での直観に欠けているので、自分の行動を決めるのに、高度なコンピュータープログラムのような純粋な論理に依存する。……人間関係に関する選択をするために、自分の知性で論理的決断を使うプロセスが私にはある。感情は私の導き手ではない。決断は完全に計算されたものなのである。』</p> <p>『自閉症はうそをつくのが下手である。なぜなら、人を欺くために絡んでくる複雑な感情に対応できないからである。……ごく小さな取り繕いをするためには、その前に何度もリハーサルをしなければならない』</p> <p>④ことばのうらの意味（ことばに託された発話の目的）、あてつけ、比喻などを理解しない、ないし困難。 →</p> <p>『自閉症児はソーシャル・スキルを組織的に学ばなければならない。学校の科目を学ぶように。』</p> <p>⑤会話の脈絡のなさと一方的なあり方 →</p>	<p>・楽しみ、興味の他人との共有を求めることの欠如 ・表情から相手の情緒を読み取ることの失敗 ⇒ 「社会性の異常」</p> <p>・他者と会話をはじめたり、続けることの異常なあり方 ⇒ 「コミュニケーションの異常」</p>
<p>同時処理の優位性</p> <p>視覚処理の優位性</p>	<p>『絵で考えるのが私のやり方である』</p> <p>『私の「目」で考える方法や、感覚の過剰反応が対人関係を難しくしていることには気がついていなかった。……もっと多くの教育者や医者がこうした「違い」を理解すれば、幼いころにさらされる、恐ろしい疎外感から救われる自閉症児が増え</p>	

	<p>るであろうに。』</p> <p>⑥ことばに頼らない思考の方法 </p>	<p>・常同的、反復的な言語行動 ⇒「コミュニケーションの異常」</p>
<p>特異な記憶方法</p>	<p>『本を読む場合、活字をカラー映画のように翻訳するか、そのページを後で読むために写真のように記憶にたたみこむかする。再読の際、それは私の頭の中でそっくり再現され、・・・』</p> <p>⑦機械的な記憶 </p>	<p>・変化に富んだ自発的なごっこ遊びや社会性を持った物まね遊びの欠如 ⇒「コミュニケーションの異常」</p> <p>・突然、過去のできごとを思い出し、状況にそぐわない行動をすることもある。 ⇒「タイムスリップ現象」</p>